大会報告

JWOC2007 報告

ジュニア世界選手権大会 2007 年 7 月 7-13 日 オーストラリア

JOA 強化委員会
尾上秀雄

北から照り付ける太陽。難解な岩だらけの迷宮。日本のジュニアが初めて体験する南半球のテレイン

2007 年 7 月 7-13 日 オーストラリア
ジュニア世界選手権大会（JWOC2007）

JWOC はオーストラリア

東欧で開催されることの多い JWOC であるが、今年はオーストラリアのダボ市で 7 月 7 日～13 日の会期で開催された。初めてヨーロッパ以外の国での開催であり、さらに南半球ということでオフィシャルにとっても未知の世界が待っていた。

日本からは男女各 6 名の選手と 3 名のオフィシャルの計 15 名のチームを送り込んだ。34 ヶ国からの 300 名を越える選手を相手に戦った。ここでは各レースの経過および結果を関連トピックスと共に報告する。

岩だらけのテレイン

今年のテレインの特徴はとにかく岩だろう。事前に Web などでその地図や写真が紹介されていたものの、実際にトレキャンで初めて、その規模を目にした選手の驚きは予想以上だった。

夜のミーティングで情報交換した結果、コーチを含めてうまくこなしている人は、岩石群、岩石地帯、岩のないところなどを、地形と組み合わせて大づかみに捉えて進んでいることが分かった。そしてもちろん巨大岩や裸岩を必要に応じてチェックしている。

もうひとつ特徴的なことは、岩がごろごろしたところを走るためにどうしても足元を意識してしまい、方向維持がいい加減になってしまうことだ。遠くを見ることやプランを先行させることがコーチから指摘された。確かに見通しの良いところで今から行くところの見当を付けておくことは有効で、これで開眼した選手も少なからずいた。

また足元の悪いところで走りながら地図読みすることははほとんどできないため、プランを頭に叩き込んでおくことが必要なのだ。

南半球

南半球だから「冬」で寒くて乾燥していること、南半球用のコンパスが必要なことは事前に分かっていたわけだが、それでも予定外のことがいくつかあった。

「水系は溝になり、ほとんどの池は干上がっている」という話とは異なり、何度か冷たい雨に見舞われた。特に 3 日目のトレキャンでは雹が降ってくる寒い 1 日だった。おかげでせっかく作った T シャツも着る機会が少なく、長袖の上に重ね着をした。

若い選手たちに南半球用のコンパスをこの機会だけのために購入させるのは忍びなかったので、多くの先輩オリエンティアにお願いして借用させてもらった。この紙面を借りて改めて感謝したい。選手たちは特に問題なく借りたコンパスでレースをすることができたのだが、ここでは私が経験した失敗談を紹介しよう。

トレキャン 2 日目にみんなをスタートさせた後、自分も地図を持って近くの山に入ったのだが、うっかりコンパスを忘れていた。何とかこなしていたのだが、手がかりの少ない緩斜面のコントロールからの脱出で、ちょうどお昼だったので差し込んできた日の光の方向に反射的に地図の南をあわせてしまった。そしてその後ミラクルワールドに入り込んでしまったのである。「南半球ではお昼の太陽の方向は北である」ということに気づいたのはだいぶ経ってからであった。

スプリント競技

スプリントは動物園で開催された。開会式で「柵はくれぐれも越えないように。閉会式でみなさんとまた会いたいから」というジョークめいた挨拶があり、オーガナイザも楽しんでいるようだった。

ふたを開けてみると期待に違わぬすばらしい場所で、地図で見る以上に変化に富んだスプリント向きのテレインだった。昨年はコースがやさしすぎるという声が多かったが、今年は面白いコースだった。スプリントは最も目標にしやすい種目なので、国内合宿でもスプリントに特化した練習をやってきたわけだが、日本選手はことごとく討ち取られてしまった。方向が頻繁に変わることへの対応がスムーズにできないレベルでは勝負にならない。他の種目にも共通することなので、今後の課題であろう。

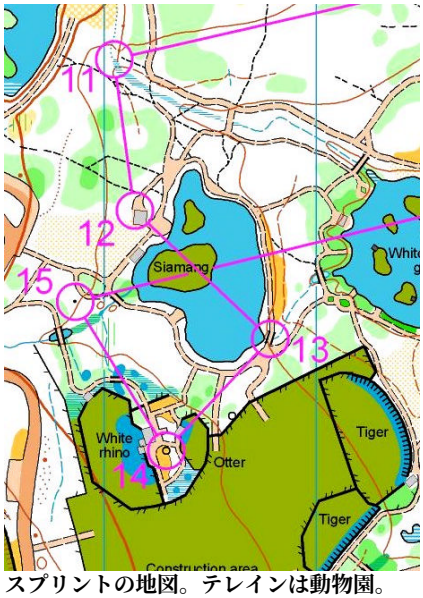
スプリント競技女子 2007 年 7 月 8 日

1	E. SVENSSON	0:13:19
2	S. SVOBODNA	0:13:20
3	M. ALM	0:13:23
78	根本真弓	0:19:28
82	高野美春	0:20:37

84	白形由貴	0:22:08
86	田川雅美	0:23:31
88	永田有佳里	0:25:47
	青山由希菜	mp

スプリント競技男子 2007年7月8日

1	V. KRAL	0:13:59
2	O. LUNDANES	0:14:05
3	I. SIRAKOV	0:14:23
93	久米航	0:18:32
99	大橋悠輔	0:18:52
104	神谷泰介	0:19:25
105	宇野駿介	0:19:57
107	土屋裕輝	0:20:09
113	小見山斉彰	0:22:02



スプリントの地図。テレインは動物園。
トラの檻の近くを駆け抜けるコース。

ロング競技

ロングは男子11.1㎞、女子7.2㎞と距離は例年より短いが、岩がちのテレインのため、同様のフィジカル的な強さも求められる堂々たるコースである。フィジカル的にも技術的にも厳しい日本選手は、大半の選手が完走目標だったが、なかなか厳しい結果だった。

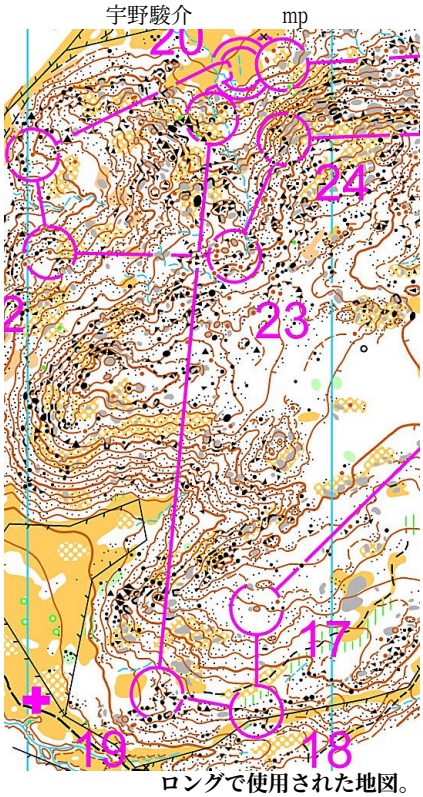
そうした中で神谷が良い走りを見せた。「最初から落ち着けた。前半、難しいルートを通らずに走っていたらオーストラリアの選手に追いつかれたが、それほど足が速くなかったので、走るルートは違うけどコントロールで一緒になるというのを繰り返してずっと一緒だった。さらに後半はハンガリーとも並走できた。」と言うように、自分のオリエンテーリングをやりながら外国選手と並走することができて良い結果に結びついたようだ。

ロング競技女子 2007年7月9日

1	S. ULVESTAD	1:00:47
2	K. H. STEIWER	1:01:13
3	H. SAARIMAKI	1:01:48
84	高野美春	2:01:00
85	青山由希菜	2:03:04
86	根本真弓	2:06:18
87	田川雅美	2:09:23
88	白形由貴	2:48:04
	永田有佳里	mp

ロング競技男子 2007年7月9日

1	O. LUNDANES	1:11:30
2	M. DAEHLI	1:14:05
3	C. BOBACH	1:15:31
90	神谷泰介	1:43:46
102	小見山斉彰	1:58:16
113	大橋悠輔	2:17:34
114	土屋裕輝	2:21:48
117	久米航	2:42:05
	宇野駿介	mp



ロングで使用された地図。
岩だらけのテレイン。

ミドル競技

ミドルは今まで日本人選手はBファイナル進出を目標にすることが多かったが、今年は参加人数の関係でCファイナルがなく、順位よりも何とか岩がちのテレインに対応できるようにという技術的課題が目標になっていた。結果的には、少しずつ慣れてはきたというレベルに留まった。膝に不安を抱えていた小見山がやっと満足に走れたのが明るい材料。

反面、前日に立ち木に激突して脳震盪を起こした永田が、この日もワイヤで回転して背中から着地して肺（気管支？）を痛めるなどさんざんだったが大事に至らなくて良かった。

決勝は香港、中国、日本の大パック競争になった。前日は日本が優勢だったが、香港、中国とも走力に長けた選手が多く、この日は負けてしまった。

それまで国際交流のきっかけがあまりなかったので、前日に思いついて選手たちに決勝の1～3位の選手を予想させた。これはなかなか効果的で、成績を調べたりして選手の名前を覚えるきっかけとなった。圧巻は、神谷が男子の1～3位と女子の1位を、順位も含めてすべて当てたことである。

ミドル競技予選女子 2007年7月11日

A-1	J.LONNKVIST	0:23:10
A-20	A-final	0:30:49
A-29	高野美春	0:53:41
A-30	永田有佳里	1:05:46
B-1	K. H. STEIWER	0:24:48
B-20	A-final	0:31:42
B-27	青山由希菜	0:45:28
B-28	根本真弓	0:49:28
C-1	I. M. BJORGUL	0:25:02
C-20	A-final	0:32:30
C-27	白形由貴	0:45:38
C-29	田川雅美	0:57:22

ミドル競技予選男子 2007年7月11日

A-1	T. SILD	0:23:15
A-20	A-final	0:27:16
A-36	小見山斉彰	0:34:17
A-40	神谷泰介	0:41:08
B-1	O. LUNDANES	0:23:51
B-20	A-final	0:28:36
B-38	宇野駿介	0:44:23
B-40	大橋悠輔	0:44:40
C-1	Z. LENKEI	0:23:21
C-20	A-final	0:27:39
C-39	久米航	0:42:40
C-42	土屋裕輝	0:47:09

ミドル競技決勝女子 2007年7月12日

A-1	J. LONNKVIST	22:07
A-2	I. M. BJORGUL	23:41
A-3	T. MENDEL	24:32
A-3	S. KINNI	24:32
B-1	K.REA	23:27
B-19	根本真弓	31:48
B-20	青山由希菜	32:48
B-22	田川雅美	33:48
B-24	高野美春	37:14
B-25	永田有佳里	37:42
B-28	白形由貴	47:02

ミドル競技決勝男子 2007年7月12日

A-1	O. LUNDANES	23:15
A-2	P. ERIKSSON	23:59
A-3	M. HUBMANN	24:02
B-1	O. KVAKA	23:31
B-40	大橋悠輔	32:11
B-46	宇野駿介	33:28
B-48	神谷泰介	35:07
B-52	土屋裕輝	37:13
B-55	久米航	38:41
B-56	小見山斉彰	39:43

リレー競技

今年のリレーチームは、国内合宿の時に選手から互選して定めたチーム分けをベースにトレキャンでの対応状況を確認してコーチが決めた。最終的には女子は第2チームが正式記録となり、男子も2走までは第2チームの方が先行という結果からも分かるように、バラツキの中でレースをしているというレベルを脱することができなかった。

この日は高野と宇野が快走した。また白形が最後のビジュアルで先行する中国に肉薄して盛り上がった。

もうひとつの圧巻は女子のトップ争いで、同時に最終コントロールに現れてスプリント勝負になったことだ。同タイムでフィニッシュしたこの競り合いは、JWOC史に残るものだ。

リレー競技女子　2007年7月13日

1	ノルウェー1	1:41:49
2	スウェーデン1	1:41:49
3	スイス1	1:43:05
19	日本B	2:55:22
	根本真弓	1:02:32
	高野美春	0:51:48
	白形由貴	1:01:01
-	日本A	mp
	永田有佳里	mp
	田川雅美	1:04:28
	青山由希菜	1:08:26

リレー競技男子 2007年7月13日

1	チェコ1	2:09:47
2	ノルウェー1	2:10:57
3	ラトビア	2:14:30
24	日本A	3:19:40
	神谷泰介	1:09:03
	久米航	1:03:37
	小見山斉彰	1:07:00
-	日本B	3:27:29
	大橋悠輔	1:09:49
	宇野駿介	1:00:25
	土屋裕輝	1:17:14

その他

今年のＪＷＯＣは、トレキャンでの移動にレンタカーが必要だったことや、本戦の宿舎が町から遠かったりして、ストレスが多かった。

そんな中で宮城島君が日本への現地ビデオレポートを、選手を巻き込んで面白おかしく作ってくれたので、毎日の楽しみになった。

また宇野の提供してくれた赤飯パーティに合わせて、永田が宿舎の台所でおかずを作ってくれたりして、ほっとできるひと時が持てたことは幸いだった。

ここ数年は日本人にも、さほど違和感のないテレインばかりだったが、オーストラリアの岩テレインは難解だった。基本的な技術の上にさらに組み立てなければならない課題があるという状態は、今の日本のJWOC選手にとっては限界がありそうだ。しかし背伸びをせずに確実に組み立てていく姿勢はいつの場合も必要だ。

来年のＪＷＯＣはスウェーデンのヨーテボリで開催される。ここも日本人には難解なテレインが待っている。今から攻略のための方策を思い巡らせているが、詳しい方にはぜひお手伝いいただきたい。またJWOC年齢の選手候補には、オリエンテーリングの本場スウェーデンでの大会を目標に、今から準備して挑戦してもらいたい。

（尾上秀雄）